

# 医学博士のメデイカルコラム 病気が教えてくれるもの

## 第50回(最終回) 永遠なる心

僕がこれまで一貫して訴えてきたことは、「肉体」ではなく、「心」が人間存在の主役であるということだった。「医者とは身体を治してなんぼでしょ?」と言われそうだが、何故、僕がここまで「心」にこだわるのか?それは、「心」が永遠の存在であると信じて疑わないからだ。

人は皆、「必ずいつかは失うもの」に価値を求める。寿命やお金、持ち家や車、社会的地位や肩書、美しい妻や出来のよい子供…。それらが手に入れば幸福、手に入らなければ不幸と考える。けれど、人生の旅を終え、死を前にした人が「最期」に求めるものは何であろうか?

終末期の患者を見送った経験から、この世への執着が無くなった人が求めるものは「心の平安」である。後悔することがあるかと尋ねれば、「もっと人に優しくしておけば良かった」と言う。そう、最後に人間は「心が平安であること」が幸福だと感じるのだ。

そして、「心の成長」については、未完成であることを自覚し、決して満足することなく死んでいく。それで「全て終わり」という「考え方」もあるだろう。すると、死というのは徹底的に避けたいし、怖い存在でしかない。だから生に執着するし、死ねば終わりなら、自分中心に、好き

放題に生きるのが「幸せ」と考える人が出てくる。その結果、間違いなく自分も家族も「不幸」になる。何度も言ってきたことだが、人生の幸・不幸を左右するのは、間違いなく「考え方」である。

「死ねば終わり」が人を不幸にする「考え方」であるならば、「死んでも終わらない」は人を幸福にする「考え方」だろうか?答えは「イエス」である。「心の成長」を完成に近づけるために、様々な経験を積む目的で、環境や立場を変えて、繰り返し人生修業を続けているのが我々の姿だと考えれば、死はひとつの「卒業イベント」でしかない。人生における苦難や困難や病気などは、「心の成長」を促進させるための“砥石”であり、好き放題やれば、責任も追いかけてくるが、心清く、正しい方向で努力を続けていけば必ず報われる。のように生きていければ常に「心は平安」であるのだ。だから僕は「永遠なる心」にこだわり続けているのだ。(完)

### 医学博士 木村謙介

北海道大学医学部卒。慶應義塾大学医学部循環器内科専任講師などを歴任。米カリフォルニア大学サンディエゴ校医学部留学、最先端の基礎医学と豊富な臨床経験を持つ。「大きな病気を発症する前にその芽を摘み取る方が医療レベルは高いはず」の信念で2012年、きむら内科クリニックを開設。



医療法人

きむら内科クリニック TEL 044(981)6617

麻生区五カ田2-14-6

きむら内科クリニック 麻生区 検索